

主な学校行事

4月		10月	中学校見学（合唱コンクール・国際クラブ発表会）
5月	中学校体験（部活動）	11月	中学校体験（授業体験）
6月	中学校見学（体育大会）	12月	合同ボランティア（校区清掃）
7月		1月	国際クラブ交流会
8月		2月	児童会生徒会交流会
9月	小中学生の交流会（各学年随時）	3月	

学校のアピールポイント

施設連携型小中一貫校として

「たくましく未来を切り開く心豊かな子どもの育成」をめざす。

①めざす子ども像

国際社会の一員として、
自ら考え主体的に行動する子どもの育成

②重点目標

- 小中一貫教育実践の創造
- 英語教育の充実
- 多文化共生教育の充実
- 学力・体力の向上

小中教職員が連携し9年間を見通した「学び」や「育ち」を大切にしたい教育をめざします。

小中学校共通の目標を掲げ、児童生徒の交流を軸とした部活動体験、授業体験を行います。

また、中学校教員による様々な教科の出前授業を行います。

③【大池生活プラン】

子どもたちが自己実現を確立していくためには、「自尊感情」、「自己有用感」を高めていくことが重要で、学校教育の中でこれを支える力を育成していくことが必要です。

- 基本的な姿勢・態度として、「適切なあいさつ」「清掃」「時間を守る」「人の話を聞く」「自分の考えを話す」ことのできる児童生徒の育成に取り組みます。

④【大池学習プラン】

確かな学力の向上を図るために、支えあい高めあう集団作りを行うとともに、子どもたちが落ち着いて学習に集中することができる環境づくりに取り組む必要があります。

- 基本として、「学習に向かう姿勢」を。「学習スキル」として、相手を意識した話し方・聞き方・読み方・見やすくわかりやすいノートづくりと「家庭学習」として自学自習の習慣をつけていきます。

⑤【大池多文化共生プラン】

国際的な視野に立った人材を育成するために、自己のアイデンティティの確立をめざし、違いを認め合える集団づくりに取り組む必要があります。

- 「国際理解教育」として、グローバルな協調性・英語教育の推進を。「国際クラブ」で外国にルーツをもつ子どものアイデンティティの確立をめざします。また、「地域学習」として、韓国・朝鮮に関連ある施設の活用をしていきます。

特色ある学習活動等

1. 英語学習の充実

週1日、中学校英語教員を小学校に派遣し、英語学習のサポートを行います。また、小学校では小3年から英検ジュニア、中学校では全員、実用英語技能検定を学校を会場として受検します。

2. 多文化共生教育の充実

日本最大級の 코리아タウンを校区にもつ本校は、国際理解を柱とした、多文化共生教育を行います。韓国朝鮮や中国など外国にルーツのある子どもたちのアイデンティティを高めるため、地域の歴史を学び、グローバルな協調性をもつ子どもたちを育てました。この取り組みをさらに深化・充実させるため、ユネスコスクールの理念を大切に、あらゆる場面で地域の特色や世界のことについて学んでいます。

3. 中学生による協同学習

中学生が小学校に行き、小学生の発達に合わせ様々な学習のサポートを行います。また、読み聞かせや運動の補助、行事の手伝いなど、各学年間で、様々な交流を行います。

4. 学校図書館等活用活動（読書活動）

大池小学校を開校するにあたり、『行きたくなる図書室』『本を手に取りたくなる図書室』をコンセプトとして、図書室を改装しました。また、各教室や廊下にも書架があり、子どもたちが自然と本に囲まれるように、そして、子どもたちの読書量が増えるように工夫をしています。

中学校体験（授業体験・部活動見学） 毎年2回（6月部活動体験、11月体験授業）実施しています。



大池小学校図書室 カフェの様な空間で、子どもたちに人気の本がたくさんある図書室です。



小中交流会 大池小学校で小中学生全員での交流会です。小学生と中学生とのきょうだい学年で取り組みを行い小中学生同士の連携を深めます。





大阪市立

大池小学校

校長名	小椋 健司
所在地	〒544-0005 大阪市生野区中川3-4-3
電話番号	06-6753-1822
FAX番号	06-6753-1857
HPアドレス	https://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e671499



標準服



大阪市立

大池中学校

校長名	前田 善久
所在地	〒544-0005 大阪市生野区中川6-3-6
電話番号	06-6752-3451
FAX番号	06-6751-9581
HPアドレス	https://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j672480



標準服



令和3年度よりブレザーを男女統一しました。

主な学校行事

4月	入学式、給食参観・学習参観、学級懇談会、国際クラブ・国際理解学級始業式、遠足
5月	家庭訪問
6月	運動会、体力テスト、プール開き
7月	学期末懇談会
8月	
9月	おいけフェスティバル
10月	遠足、自然教室（5年生）、園作品展、学習参観、学級懇談会、修学旅行（6年生）
11月	国際クラブ・国際理解学級発表会
12月	学期末懇談会
1月	
2月	学習参観、学級懇談会、国際クラブ・国際理解学級修了式
3月	卒業式

教育目標

たくましく未来を切り開く 心豊かな子どもの育成

重点目標

- 小中一貫教育実践の創造
- 多文化共生教育の充実
- 英語学習の充実
- 学力・体力の向上

めざす子ども像

◎国際社会の一員として、自ら考え主体的に行動する子ども

- 自己のアイデンティティを持った子ども（自分を知る、仲間を知る）

- グローバルな協調性を持った子ども

（挨拶ができる、自分を大切にできる、仲間を大切にできる）

- 未来を切り開くための学力を持った子ども（主体的・対話的学び、社会とのつながりを考える学び）

- コミュニケーション力、英語力、ICT活用力を持った子ども

- 未来を切り開くための体力、体力向上の意識を持った子ども

（日常的な運動習慣、体力を高めようとする姿勢）

校長先生のメッセージ

学校重点目標の4つの柱の1つである、多文化共生教育の充実は、本校教育活動の大きな特色の1つです。国際理解の取組や民族学級（国際クラブ）、熊猫班級（中国学級）、ホワセン学級（ベトナム学級）の取組、地域について学ぶ取組、韓国・朝鮮、中国をはじめ世界の国々の文化について触れたり学んだりできる取組などを進めています。

これらの取組は、「全ての子どもたち一人一人のルーツやアイデンティティを大切にしたい」との思いから端を発しています。名前の由来や生い立ち、家族や親せき、祖先や縁のある土地や建物、故郷や母国といったものについて知ることは、生きていくためにとても重要なことだと考えます。

一人一人の子どもたちが、しっかりと自分の「ルーツ」について知り、その意味やつながりを学んでいくことは、自分を大切にすること、そして友だちのことやルーツを大切に考えることにもつながっていきます。「子どもたち一人一人のルーツを大切にすること、子ども同士のつながりを深められる学校をめざしていきます。

令和5年度全国学力・学習状況調査

平均正答率（％）	国語	算数
	59.0	50.0

結果概要

平均正答率では、国語は8.2ポイント、算数は12.5ポイント全国平均より下回っている。

【国語】「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の問題では、全国平均正答率よりそれぞれ5.3ポイント、2.7ポイント下回っている。漢字の習得・活用においては、全国平均正答率と大きな差は見られなかったが、全ての「記述式」の問題において、全国平均正答率と大きな開きがあり、読み取ったことや、自分の考え・分かることをまとめて書くことに大きな課題が見られた。

【算数】基本的な計算や表から比例の関係を読み取る問題では、全国平均正答率と大きな差は見られなかったが、「数と計算」「図形」、特に「データの活用」の問題では、全国平均正答率と大きな開きがある。また、「記述式」の問題において、自分の考えや分かったこと、考えの理由をまとめて書くことに大きな課題が見られた。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

- 国語科では、書いてある内容や文の意味を理解しながら文の中で正しく使い、目的や意図に応じた文章を書くことができるよう「書くこと」に重点を置いた授業の充実を図る。また、他教科との関連を図り、「文章にまとめる」「言葉で説明する」「できる限り漢字を使って表現する」「文章を要約する」等、国語科で学習したことを活用する機会を意図的に設定する。また、話し合い活動の充実を図るために、ペアトークやグループでの話し合い活動の場を、学校生活の様々な場面で取り入れるよう工夫する。
- 算数科では、授業の初めに「100ます計算」や「フラッシュカード（計算）」「暗算タイム」を取り入れるなど、基礎的・基本的事項の習得に重点を置いた授業展開を図る。また、習熟度別少人数学習を通して、数学的な考え方や数量や図形についての知識・理解・技能を確実に定着させたり、活用する力を育てたりすることに取り組む。また、授業の終わり、単元の最後、学期末に、学習したことを振り返り、再学習することを徹底し、更なる学習内容の定着を図る。
- 依然として、児童の自己肯定感が低く自信のなさが伺えるが、経年で比較すると、肯定感が少しずつ高まってきている。今後も引き続き、学校での様々な教育活動において、「褒める」「互いに認め合う」ことを大切にするとともに、保護者・地域とも連携して、「褒める」「認める」「見守る」風土を作っていく。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

種目別平均値

性別	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)
男子	17.19	16.73	37.85	39.26
女子	15.94	17.25	40.53	35.50

性別	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	合計得点
男子	41.96	9.40	158.33	20.58	54.04
女子	27.21	10.43	141.66	12.27	51.96

結果概要

男子は、握力、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市平均を上回った。

女子は、握力と立ち幅とび、長座体前屈は大阪市平均を上回った。

体力合計点については、大阪市平均と比べ、男子は上回り、女子は下回った。

アンケートでは、質問「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的回答の割合が、大阪市の平均男子92.6%、女子83.5%に対し、本校は男子が96.3%、女子が57.6%という結果だった。また、「学校の体育の授業以外での一週間の総運動時間」への回答では、大阪市平均の男子607分、女子342分に対し、本校は男子が604分、女子が401分だった。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

①12月より週に1回大縄集会を行い、体力と持久力の向上に向けて取り組んだ。

②2学期と3学期に大縄大会を実施し、各学級で練習に取り組んだ。

③なわとび頑張りカードやマラソン頑張りカードを運動委員会の児童が作成し、各クラスで活用した。

本校ではこれまで、以上の取り組みを実施してきた。令和5年度より新型コロナウイルス感染症の扱いが第5類に変わり、運動等の活動に取り組みややすくなったものの、コロナ禍のため児童の体力はかなり低下しているように感じる。そこで、来年度以降運動委員会主催の集会を増やし、本校の課題である「体力・持久力」の更なる向上につながるように積極的に活動できるように働きかけていく。

教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、国際社会の一員として、個性を生かし、自ら学ぶ態度と心豊かにたくましく生きる力を育む教育を推進する。

重点目標

- 小中一貫教育実践の創造
- 英語教育の充実
- 多文化共生教育の充実
- 学力・体力の向上

校訓

心美しく 誇り高く 遅しく

めざす生徒像

国際社会の一員として、自ら考え主体的に行動する子どもの育成

令和5年度全国学力・学習状況調査

平均正答率（％）	国語	数学	英語
	66	45	41

結果概要

平均正答率は全国平均を下回っているものの、国語・数学ともに平均無回答率が全国平均を上回ることができた。

国語では全国平均と比較して、「書くこと」が全国正答率を上回る結果となったが、「読むこと」においては全国平均との差が生じている。

数学では大阪府平均と比較して、「データの活用」が平均に達しているが、「関数」においては、差が生じている。

英語では必要な情報を読み取る設問で全国平均を大きく上回る結果となったが、「聞く」「話す」「書く」で差が生じている。

生徒質問紙による、「自分には、よいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で、全国平均を大きく上回る結果となった。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

引き続き基礎学力の定着を進めつつ、ICT機器を効果的に活用することで理解力を高め、わかる授業を展開するとともに、学年・学校行事においても言語活動の充実を図る。

国語においては、漢字の書き取りや文法学習を丁寧に指導し、書く能力を高めていくとともに、話すこと・聞くことの領域については、生徒同士が安心して自分の意見を「話す」、相手の意見を「聞く」という環境作りを図る。

数学においては、授業内での反復練習を増やし、プリント学習で数と式の基礎学力の定着を図る。また、少人数授業等で個々の理解力を高める授業を行う。

英語においては、習熟度別授業等できめ細やかでわかる授業を展開するとともに、C-netを活用した言語活動の充実を図る。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

種目別平均値

性別	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)
男子	25.54	24.12	40.38	47.69
女子	24.60	20.96	46.64	47.46

性別	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	合計得点
男子	83.00	8.24	185.00	17.77	36.29
女子	53.14	9.11	163.23	12.93	48.62

結果概要

体力合計点において、女子は全国平均を上回ったが男子は下回った。昨年度の結果とは男女が逆転する形となった。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

<成果と課題>授業や部活動の成果から持久力は男女とも全国平均を超える結果となった。しかし、「運動時間の減少」の傾向が依然強く、女子は全国平均を超えたものの、男子は下回る結果となった。

<アクションプラン>体力の大幅な低下を改善するため、授業や体育的教育活動の工夫・改善に取り組み、体力全体の向上を効果的に図っていく。

卒業後の進路

過去3年間の卒業生数	令和5年度	67	令和4年度	83	令和3年度	63
------------	-------	----	-------	----	-------	----

【大阪府下の府立高校】大阪わかば（勝山・桃谷）(9)、東住吉総合(8)、成城(7)、布施北(5)、阿倍野(4)、高津(4)、長吉(4)、花園(4)、港(4)、八尾北(4)、今宮(3)、大阪府教育センター附属(2)、清水谷(2)、大正白穂(2)、天王寺(2)、東淀川(2)、桃谷(通信制・定時制夜間)(2)、夕陽丘(2)、桜和(2)、旭、生野、大手前、港南造形、住吉、野崎、布施工科、茨田、みどり清朋、八尾

【大阪府下の旧大阪市立高校(現在は府立高校)】工芸(4)、大阪ビジネスフロンティア(3)、鶴見商業(2)、生野工業、第二工業、東、東大阪市立日新

【大阪府下の私立高校】大阪夕陽丘学園(9)、大阪学芸(7)、あべの翔学(6)、興國(6)、上宮(5)、金光藤蔭(5)、近畿大学附属(4)、東大阪大学敬愛(4)、桃山学院(4)、追手門学院大手前(3)、大阪成蹊女子(3)、金蘭会(3)、城南学園(3)、YMCA学院(3)、大阪偕星学園(2)、大阪産業大学附属(2)、大阪信愛学院(2)、関西大学北陽(2)、阪南大学(2)、ルネサンス大阪(2)、英風、大阪商業大学、関西創価、四條畷学園、常翔学園、清明学院、相愛、プール学院、早稲田摂陵

【その他(他府県等)の高校】私立通信制高校(5)、天理(奈良)(3)、東朋高等専修学校(3)、島根県立島根中央(2)、たまがわ高等支援学校(2)、未定(2)、大阪情報コンピュータ高等専修学校、大阪スクールオブミュージック、大阪美容、科学技術学園、金沢(石川)、関西文化芸術高等学校(奈良)、京都翔英、高知中央(高知)、御所実業(奈良)、神港学園(兵庫)、日本航空石川(石川)、彦根総合(滋賀)、報徳学園(兵庫)

校長先生のメッセージ

大池中学校は昭和22(1947)年に生野第一中学校として開校し、令和4年度から大池小学校との施設連携型小中一貫校として開校しました。

中学校としましては、本年度第80期生の新入生を迎え「人を大切にする心の大きさ」を誇れる学校という目標を目指して、全教職員が一丸となり教育活動を行っています。

小学校と中学校とが授業や部活動、そして行事で連携を行うだけでなく、教員のつながりも大切にしながら、児童と生徒が学年単位でも交流を深められるように取り組みながら小中一貫教育を進めています。すべての子どもが安心して学べる教育環境とともに、地域の誇りとなる学校運営をめざして努力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

中期目標、年度目標等

計画のエッセンス

心美しく 誇り高く 遅しく
「たくましく未来を切り開く心豊かな子どもの育成」

【安全・安心な教育の推進】

- 校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 英語教育について、英検（実用英語技能検定）を実施に向け、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。
- 連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を90%にする。